

2014年4月6日 受難節第五主日礼拝

説教 勇敢な人生

ヨハネの福音書 16章 29-33節

【愛の勝利】

主イエスが「世に勝つ」とおっしゃるとき、それは、ただどっちが勝ってもおかしくない、対等な敵に勝つというようなことではありません。キリスト教に反対する者に勝つ、というようなことでもありません。患難を敵と見なして、患難に勝つ、という意味でさえありません。それよりもっと大きな勝利を語っておられるのです。それは、十字架による勝利。十字架の愛による勝利。患難の中で、自分に敵対する者を愛し抜く、という勝利。

この説教を語り終えた後、主イエスは逮捕され、徹夜の裁判、そして十字架へ。みな、主イエスは負けたと思いました。けれども、主イエスは十字架の上で、「父よ。彼らをお赦してください。彼らは、何をしているのか自分でわからないのです」（ルカ 23:34）とおっしゃいました。自分に憎しみを注ぐ者たちのためにとりなし、彼らを愛されて、愛し抜かれた。これが勝利。愛の勝利。

【ヨハネの手紙】

「世に勝つ」と聞いて、すぐに思い浮かぶ聖書箇所が、もう一箇所あります。ヨハネの手紙第一には、「神を愛するとは、神の命令を守ることです。その命令は重荷とはなりません。

なぜなら、神によって生まれた者はみな、世に勝つからです。私たちの信仰、これこそ、世に打ち勝った勝利です」（5:3-4）とあります。ここでも、勝利は愛と結びつけられています。世に勝つ者とは、神を愛する者、そして、たがいに愛し合う者なのです。愛することが勝利なのです。

【ガンディー】

非暴力主義で有名なガンディーは、キリストチャンではありませんが、聖書からも多くを学んだ人。彼は、「非暴力運動において一番重要なことは自己の内の臆病や不安を乗り越えることである」と言いました。主イエスもまた「わたしがこれらのことをあなたがたに話したのは、あなたがたがわたしにあって平安を持つため」（33a）と語られました。平安は、主イエスにある。主イエスにつながっていれば、主の平安が私たちとともにある。そして、自己の内の臆病や不安を乗り越えることができる。暴力をふるう者を愛することができる。それがほんとうの勝利なのです。

【しっかりしなさい】

「勇敢でありなさい」（33）という言葉は、通常「しっかりしなさい」と訳されている言葉です。床に寝かせたまま運ばれて来た中風の人に主イエスは、「子よ。しっかりしなさい。あなたの罪は赦された」（マタイ 9:2）とおっしゃいました。もう主イエスの恵みが現れ

ている。だから主イエスにしっかりと結びついていなさい、そういう意味の言葉です。主イエスが最後の説教で、どうしても伝えなかったこと、それは、私があなたがたにつながってあげよう。決してあなたがたから恵みがなくなることがないように。あなたがたが、自分を注ぎ出すことが出来るように、そのために私自身を十字架に注ぎ出すのだから、ということでした。

そのとき、何が起こるか。主イエスのように自分をそそぎ出すことが起こります。それがほんとうの勝利。勝利とは何か。愛に欠けた世の中で、キリストのように生きること。世の罪を覆い、愛すること。愛し抜くこと。主イエスがそうさせてくださるのです。

【勝利の人生】

勝利の人生は、悩みのない人生ではありません。悩みつつ、祈りつつ、走る人生。患難の中で、特に「震災や津波」に関しては、「なぜ、こんなことが」という質問への答はわかりません。けれども、分からない中で、主に導かれて生きていくのです。主が自分を注ぎ出されたように、生きていく。悩みながら、愛し続けて、愛し抜く、そういう人生、それが主にある勝利の人生なのです。

そのような人生を生きる私たちに、主イエスからの、主イエスが共におられるという平安がいつもありますように。